



令和3年度末

八木山小学校 子供の姿

仙台市立八木山小学校

令和3年度 学校経営方針

【重点的に育成を目指す資質・能力】

- <生きて働く「知識・技能」の育成>
 - ・相手の話を聞き、自分の考えも話すことができる
 - ・問題の解決に必要な情報を収集することができる
- <未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成>
 - ・自分の考えを持つことができる
 - ・自分の考えを大事にし、伝える相手や状況に応じて分かりやすく表現できる
- <学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養>
 - ・めあてに向かって最後までやり抜くことができる
 - ・相手を思いやり行動できる

学校教育目標

志を持ち 心豊かに たくましく生きる児童の育成

目指す学校像

【子供が安心して学べる学校】

- 安心・安全、清潔な学校
- あいさつと笑顔にあふれた学校
- 確かな学力を培う学校
- 体力の向上に努め、心身の健康を育む学校
- 地域に開かれ、地域に信頼される学校

目指す児童像

明るく思いやりのある子供 健康で元気な子供 よく考え進んで学ぶ子供

協働型学校評価の目標

～自分に花丸！・みんなに花丸！～

【思いやりや感謝の気持ちを持って関わり合う児童の育成】

重点目標【明るいあいさつ！すてきな返事！】

～いつでも・どこでも・一人でも～

めざす教師像

【組織体として協働し自らを高める教師】

- 励み、磨き、支え合い、創意に満ちた教師
- 児童の個性を尊重し、「分かる授業」に努める教師
- 児童の温かく優しい心と、丈夫な体を育む教師
- 家庭や地域との連携・協働を大切にする教師

令和3年度重点事項と達成のための具体的な取組

【心の教育の充実】 ～命と心を守り育む教育～ ◇認め合う学級集団をつくり自己肯定感を高める。 ◇道徳教育を核とし心の教育の充実を図る。 ◇他者とのかわり合いを大切に、共によりよく生きようとする心と態度を養う。 ◇善悪を判断する力、規範意識の向上を図る。	【健やかな体の育成】 ◇体力向上を目指した運動の日常化 ◇望ましい食習慣を身に付ける食育の推進 ◇健康への関心を高め、望ましい生活習慣の定着化の推進	【確かな学力の育成】 ◇基本的な学習規律・学習習慣の確立 ◇分かる授業・魅力ある授業づくりを通して学習意欲の向上を図る。 ◇学習内容の確実な定着を図るための繰り返し学習、知識・技能を活用する学習指導の充実	【防災対応力の育成】 ◇自助・共助の力を育む防災教育の推進 ◇判断力を身に付け、自分の命を守る指導の工夫 ◇防災教育全体計画と年間指導計画の作成 ◇地域と連携した総合防災訓練の実施	
《基本的な学習・生活習慣の定着のための全校での一貫した指導》 八木山スタンダードの周知徹底と定着				
各学年部の重点目標				
・誰とでも進んで関わり仲良くする子 ・自分大好き 友達大好き	・進んで運動する子供 ・食生活を大切に	低学年	・話をよく聞き、よく考える子 ・自分を高める チャレンジ	・自分や周りの命を大切にし、安全に生活する子 ・知る 生かす 防災
・自分を認め、相手を尊重する	・外遊びの日常化 ・栄養バランスを考えた食習慣	中学年	・将来を見通した学習への取組 ・主体的に学び、小さな達成感を積み重ねる	・正しい知識と判断で、災害からみんなの命を守る
・自分と友達のよいところを見付けられる子供 ・自分の思いを伝えようとする子供	・楽しく身体を動かす子供 ・自分の体調の変化が分かる子供	高学年	・目当てに向かって最後までがんばる子供 ・学んだことを生活の中で使おうとする子供	・正しい知識と判断で、災害からみんなの命を守る
・自分と友達のよいところを見付けられる子供 ・自分の思いを伝えようとする子供	・楽しく身体を動かす子供 ・自分の体調の変化が分かる子供	特別支援	・目当てに向かって最後までがんばる子供 ・学んだことを生活の中で使おうとする子供	・訓練して身の守り方が分かる子供 ・落ち着いて自分の命を守ろうとする子供

令和3年度学校評価【児童・保護者・地域・職員アンケート】集計結果

※ 評価は、「A：よくあてはまる，B：概ねあてはまる，C：あまりあてはまらない，D：あてはまらない」の4段階

アンケート実施期間（回答数）

児童（1～6年）：令和3年12月13日～17日（515）

保護者・地域：令和3年12月13日～22日（522）

職員：令和3年12月13日～22日（31）

※表中の数値は、評価A+Bの割合（%）。ただし、No.10,12を除く。

※「保護者」への質問は「お子さんはいかが」、「地域」「職員」への質問は「本校の児童はいかが」ときいている。
（No.6・25・29を除く）

心の教育の充実

	質問項目	児 童						保護者	地域	職員
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
1	自分には、よいところがあると思う。	97	96	92	90	90	90	94	100	94
2	学級では、自分のよいところを認めてもらっていると思う。（5・6年）	—	—	—	—	81	80	—	—	—
3	人が困っているときは、進んで助けている。	89	97	85	94	91	96	93	100	100
4	いじめは、どんな理由があっても、いけないことだと思う。	99	100	99	99	98	94	99	100	100

肯定率が80%を超える結果となりました。特に震災後から県全体でも課題となっている自己肯定感についての項目では、すべての学年において90%以上となり前年度からも大きく伸びました。

健やかな体の育成

	質問項目	児 童						保護者	地域	職員
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
5	休み時間や放課後、休みの日など、外で遊んでいる。	73	82	87	76	71	56	67	92	87
6	子供たちが外で遊ぶよう声を掛けたり、一緒に遊んだりしている。（職員）	—	—	—	—	—	—	—	—	62
7	朝食を食べずに登校する日がある。 （「朝食を食べて登校する」割合で表記） →	84	89	95	97	87	89	95	90	92
8	朝食は、主食（ごはんやパン）の他におかずを食べている。	75	69	79	83	80	85	—	—	—
9	ふだん（月ようから金曜日）朝7時前に起きる。（1～4年）	77	84	85	89	—	—	—	—	—
10	ふだん（月から金曜）睡眠時間はどれくらいか。 5時間未満	—	—	—	—	1	1			
	5～6時間未満	—	—	—	—	1	2			
	6～7時間未満	—	—	—	—	4	9			
	7～8時間未満	—	—	—	—	19	19			
	8～9時間未満	—	—	—	—	47	43			
	9時間以上	—	—	—	—	26	23			
11	休みの日は、朝7時前に起きる。（1～4年）	73	53	56	55	—	—			
12	土曜や日曜など、学校が休みの日の睡眠時間はどれくらいか。（5・6年） 5時間未満	—	—	—	—	1	1			
	5～6時間未満	—	—	—	—	3	1			
	6～7時間未満	—	—	—	—	6	8			
	7～8時間未満	—	—	—	—	16	13			
	8～9時間未満	—	—	—	—	31	31			
	9時間以上	—	—	—	—	43	43			
13	ふだん（月曜から金曜日）夜10時前に寝ている。（1～4年）	76	82	77	80	—	—			
14	休みの日は、夜10時前に寝ている。（1～4年）	76	71	68	63	—	—			
15	本校の児童は、十分な睡眠時間を取っている。 （保護者・地域・職員）	—	—	—	—	—	—	87	90	88

「運動や外遊びの日常化」については、昨年度に引き続きコロナ禍ということもあり肯定率が低くなっています。また、朝食を毎日しっかり食べて登校する児童が、昨年度よりも少し減っていることが気になります。早寝早起きをし、毎日9時間以上の十分な睡眠をとっている児童の割合も低くなっており、引き続き家庭と協働で子供たちのよりよい生活習慣の定着に取り組んでいく必要があります。

確かな学力の育成

	質問項目	児童						保護者	地域	職員
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
16	勉強をとおして、新しいことが分かるようになるのは、楽しい。	93	96	91	93	87	94	—	—	—
17	自分自身の力で、何とかして答えを見付けたいと思う。	99	96	99	95	89	97	—	—	—
18	なぜだろう？と、疑問や不思議に感じるがよくある。	78	85	83	86	86	88	—	—	—
19	児童は、学習習慣が身に付いている。 (保護者・地域・職員)	—	—	—	—	—	—	83	100	93
20	児童は、学習意欲が向上している。 (保護者・地域・職員)	—	—	—	—	—	—	74	100	96
21	難しいことでも、失敗をおそれないでチャレンジしている。	94	86	82	78	77	84	69	82	54

学習への意欲について全学年でほぼ80%以上の肯定率でした。子供たちは目標をもって、主体的に学習していることが分かります。「難しいことでも失敗を恐れなくてチャレンジすること」については、学年が上がるにつれて肯定率が低くなる傾向がありますが、昨年度よりも高い結果となりました。しかし、子供たちの実態からもっとチャレンジできると期待する保護者・職員からの評価が低くなっています。

防災対応力の育成

	質問項目	児童						保護者	地域	職員
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
22	いつも安全に気を付けて生活している。	96	97	96	98	89	93	—	—	—
23	災害のときに、自分や周りの人の命を守るためにどうしたらいいか知っている。	92	87	82	92	93	94	—	—	—
24	児童は、自助・共助の意識が育っている。 (保護者・地域・職員)	—	—	—	—	—	—	89	100	100

日頃から安全に気を付けて生活していることが、児童の80%以上の肯定率からも分かりました。昨年度から、コロナ対策に加え校舎改修工事も重なりましたが、避難経路も含め、災害時の対応について折に触れ、指導・確認してきました。

協働型学校評価

	質問項目	児童						保護者	地域	職員
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
25	子供に明るい挨拶やはっきりした返事をするよう働き掛けている。(保護者・職員)	—	—	—	—	—	—	96	—	100
26	地域の中で、知っている人に会ったときは、挨拶をしている。	91	90	90	92	90	93	84	82	—
27	学校で明るい挨拶をしている。	94	90	88	83	80	82	—	—	66
28	返事は、はっきり行っている。	99	91	86	88	87	88	81	91	73
29	子供に挨拶をしている。(保護者・地域・職員)	—	—	—	—	—	—	86	100	100

協働型学校評価の目標である「～自分に花丸！みんなに花丸～【思いやりや感謝の気持ちを持って関わり合う児童の育成】」の重点目標である「挨拶」と「返事」については、概ね良好な結果となりました。今後も学年の発達段階に応じた具体的な行動目標を設定し取り組ませていきます。引き続きご家庭と地域の皆様からも、子供たちへの積極的な挨拶や声掛けをお願いいたします。

令和3年度末 八木山小学校児童の主な姿

<特別支援学級>

- ・良いところを伝え合ったり、できることが増えたりしたことで、自信を持って学習や生活に取り組む姿が見られた。
- ・安心感を持って生活する中で、自分の気持ちを素直に表現しようとする力が上がった。
- ・自分の気持ちを、それぞれができる方法で相手に伝えようとする力が上がった。
- ・体を動かす活動を通して、心理的な安定につながった。
- ・スモールステップでの練習や遊びを通じた活動により、体の使い方がスムーズになってきた。
- ・特支合同体育の中で、参加した全員の運動量が増え、さらに全員が楽しみながら体を動かすことができた。
- ・学習の積み重ねの中で、それぞれが活動後の余暇活動に期待感を持ちながら最後まで取り組むことができた。
- ・補助器具や学習で学んだ知識を生活の中で使おうとする姿が見られた。
- ・友達に教えてあげたり、友達と伝え合ったりと、考えを交流させながら学習する姿が増えた。
- ・訓練では全員が落ち着いた気持ちで適切に避難することができた。
- ・工事場所と避難経路変更に合わせて避難経路確認を数回行ったことで、避難の流れに見通しを持って移動できた。
- ・「おはしも」の決まりの理由も考えながら、避難時に注意すべきことを理解して避難することができた。

<低学年>

- ・道徳の授業の中で大切にしたい心について考えさせることで、子供たちが友達に対し優しい声掛けをするようになってきた。
- ・困っている友達を見かけると進んで声を掛けるなど、思いやりの気持ちが見られた。相手のことを気に掛けたり、気持ちを尊重して考えたりして行動できる児童が増えてきた。
- ・外遊びに行く児童が増えた。
- ・授業の始めと終わりの号令を、目と耳と心で聞けるように意識する姿が見られた。
- ・計算練習に継続的に取り組ませることで、足し算と引き算の定着につながっている。
- ・友達の意見に対し、ハンドサインで自分の考えを表現することで、友達の意見をよく聞くとともに、自分の考えを積極的に伝えられるようになった。
- ・自分の考えと友達の考えを比べてノートに色別を書くことを指導することで、相手の話を聞こうという意識が高まった。授業中に同じ考えや違う考えを意識して発表する姿が見られた。
- ・学習発表会では、これまで学習したことを生かして練習に取り組むことを示した。発表会への見通しや、何をするのかどんなことを伝えたいのかという意識を持って取り組むようになってきた。また、行事を通して自信を持って発表することができるようになってきた。
- ・避難訓練のときには、放送や教員の指示をよく聞き、安全に行動しようとする姿が見られるようになった。

<中学年>

- ・自分のことだけではなく、友達のことを目が向くようになった（よいところ、頑張っているところ）。
- ・男女で外に出て遊ぶことが増えた（ドッジボール、鬼ごっこ、遊具など）。
- ・栄養と健康のつながり、命をいただいていることの学びを通して、食の大切さについて考える児童が増えた。
- ・「健康」をテーマにした総合的な学習の時間を通して、課題を追究する力を付けた。実践を交えて情報を収集することで、自分に直接関わっている身近な課題であることを改めて感じる事ができた。
- ・「座ろう」「静かにしよう」「〇〇の時間だよ」など、児童が互いに気付き、声を掛け合い行動することができるようになった。
- ・互いを褒め合う活動を通して、自己肯定感や自己有用感が高まった。思いやりのある言動が増えた。
- ・グループでの活動に慣れ、リーダーシップとフォロワーシップを意識する児童が増えた。自発的に声を掛け合い、学級をよくするために工夫しながら取り組むことができるようになった。
- ・学習の習慣が定着することで、児童が落ち着いて授業に向かうことができた。特に算数科では、少人数指導によるコース別での学習の成果も出ており、学習内容が定着してきている。
- ・ICT端末については教科や宿題（スマイルネクスト）、家庭学習（調べ学習）などで使用することで、だいたいが使いこなせるようになってきた。
- ・クロムブックを活用し、授業の中で児童の考えを伝え合う場を多く経験した。多くの友達の考えに触れることを通して、自分の考えをより深めたり広げたりすることができた。また、情報収集やスライドの活用などにも積極的に取り組む中で、情報活用能力が高まった。
- ・自主学習では、予習、復習も含め、自分の弱みを補強する繰り返し練習や、自分の強みを更に発展させる内容にも取り組めるようになってきた。
- ・「学年ドッジボール大会」「学年長縄大会」を通して、イベントの準備、進行など児童が主体となって行うことができた。大会本番や休み時間の練習、応援などを通して、クラスや学年の絆を深めることができた。
- ・行事や学年でのイベントを通して、グループで協力して取り組む達成感や楽しさを味わうことができた。同時に、学年で協力して一つのことを成し遂げる一体感を体験することができた。
- ・地震のときにすぐに机の下に隠れる、放送を聞くよう友達同士で声を掛けるなど危機管理能力が高まった。
- ・大きな地震を経験したことを基に学習したことを通して、災害について更に思いを深め、自助・共助について考えることができた。

<高学年>

- ・一年間の様々な行事や学年活動などを通し、自分の努力を実感することができた。また、友達の頑張りを賞賛することに加え励まし合うなどの場面も多く、相手を尊重する姿が見られた。
- ・学習活動では、1学期より一層 Chromebook の活用場面が増え、会議機能の活用やタイピングなどの基礎的な活用能力の高まりが感じられた。
- ・委員会活動では、委員長などの役割を担うようになり、最高学年に向けて学校全体をよくしたいと主体的に活動する姿が見られた。
- ・なかよし活動（異学年交流）では、「年下の学年が楽しめる」という目的意識を持って計画・運営を行った。
- ・避難訓練に真剣に取り組む姿が見られ、防災の意識の高まりが感じられた。
- ・学級減や教室の引っ越しなど様々なイレギュラーなことがあったにも関わらず、落ち着いて過ごすことができた。子供たちの話を聞く姿勢や決まりを守ろうとする生活態度が素晴らしい。
- ・互いの個性を認め合い、よいところを見つけていこうとする雰囲気を感じられるようになってきている。
- ・「1年生を迎える会」「修学旅行」「運動会」「発表会」などの行事や、卒業に向けての活動など、それぞれ自分で選んだプロジェクトチームに所属した。学級の枠を越えて、役割分担しながら活動をしていくことで、主体的に活動する楽しさに気付いたり達成感を味わったりすることができた。
- ・算数の習熟度別学習では、少人数による発言のしやすさや安心感、自分に合った学習のスピードなどから、より意欲的に学習に取り組む姿が見られた。
- ・自分を高めるために、より高い目標に向かって努力することができるようになってきている。